



妙高

妙高市立妙高中学校
学校だより 第24号
平成26年6月15日

携帯電話用QRコード



「本物に触れる」ということ

校長 鈴木 恒夫



- ・最初に太鼓の音が響いたとき、心臓まで振動が広がってきて鳥肌が立ちました。
- ・迫力・音・真剣さが伝わってきました。
- ・お腹の底まで音が響いてきて、みなぎるパワーを感じました。
- ・途中から震えが止まらなくなって、表現しきれないほど感動しました。

(「学年だより」より抜粋)

◆5月19日(月)、佐渡を拠点に世界的に活躍している芸能集団「鼓童」の生演奏を聴く機会に恵まれました。上は、生で聴く太鼓の演奏の迫力、素晴らしさを表現した生徒の言葉です。スピーカーでは再現できない「本物」の音に触れたときの感動が素直に表現されて

います。あの身体全体が振動するような迫力は、本当に驚きでした。

◆妙高市では豊かな感性が育む「ほんもの教育」を推奨しています。例えば妙高中学校では「竹の子狩り遠足」「妙高登山」などの自然の中で様々な体験をする活動、「職場体験」や「校外学習」のように、企業や大学などを訪れ、働く人や最先端の技術から学ぶ活動を行っています。市では各学校がそれぞれ独自の教育活動を進めることができるよう、「特色ある教育活動助成金」を予算化しています。今回の「鼓童」の演奏会もこの助成金の活用によって実現されたものです。

息を吞んで演奏に聴き入り、目を輝かせて拍手を送る生徒たちを見て、「本物(=より心に響くもの)」に触れさせることができ良かったと思いました。

◆「本物に触れる」ことは、自分自身を振り返り、生き方を考える大切な機会でもあります。生徒たちは「鼓童」のメンバーの演奏や話から、多くを感じ取りました。

- ・どんなことでも、こつこつと地道に努力することが大切だと改めて感じました。
- ・私も鼓童の皆さんのように輝き、日本、世界にはばたきたいと思いました。
- ・話を聞いて人とのつながりについて考えました。「人と人はつながっている」ということに感動しました。
- ・私たち吹奏楽部も聴いている人をもっともっと感動させられるようになりたいと本気で思いました。
- ・全てに感謝して一生懸命取り組むことで、人の心に色々なことを響かせることができました。
- ・様々なことに挑戦し、視野を広げ、誰かに夢や希望を与えられる人になりたいです。
- ・私も鼓童の皆さんのように真剣に取り組んで最後まで諦めない人間になりたいと思いました。
- ・こつこつと努力すれば、いつか輝くものに出会えるのだと思いました。
- ・鼓童の皆さんが感謝の気持ちを太鼓で表現していることがとてもすてきだと思いました。

今はTVやインターネット等によって情報が溢れています。TVもインターネットも決して「偽物」ではありませんが、何となく分かったような気になっていることが多いなあと思います。情報過多社会の今、子どもも大人も「本物に触れ、自分で考える」機会を意識的にもつことが大切なのではないでしょうか。

◆「本物」は自然や一流の芸術だけではありません。練習の成果を発揮し、精一杯戦う各種大会の競技、仲間と協力して創り上げる体育祭や音楽祭などの行事等々、学校の諸活動も立派な「本物」です。今後、各種たよりや「妙高HP」等で学校行事等の取組についてご案内をいたします。生徒たちの「本物」の姿に触れ、多くの声援を送ってくださいますよう、よろしくお願いたします。